

## 『市川市塩浜護岸に関する勉強会』結果概要

1. 開催日時 平成19年1月26日（水）18:00～20:00
2. 開催場所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 28名(委員10名、一般2名、縣市9名、事務局7名)
4. 座長 遠藤茂勝委員
5. 次第
  - (1) 第17回三番瀬再生会議に提出する資料について
  - (2) 塩浜のまちづくりについて
  - (3) その他

6. 概要
  - (1) 第17回三番瀬再生会議に提出する資料について

### 1) 主な質疑

- Q. H18完成20メートル部分の石積部分の緑化は可能か。
- A. H18完成部分は、緑化を考慮した構造となっていないため、基盤となる土が流出し緑化はできない。
- Q. 環境学習エリアの可能性を考慮すると、すり付け区間は60mに決定せず、できるだけ広く確保してもらいたい。
- A. 地権者の利用を考慮して60mとしているが、今後地権者と協議していく。
- Q. 環境学習の場（湿地再生の場）の検討スケジュールはどうか。
- A. 三番瀬再生検討グループにおいて、あるべき姿等を議論しているところであり、今後、持つべき機能、規模等を検討していく。
- Q. 2工区から優先的に完成させることはあるのか。
- A. 捨石を先行させると、平成20年度で繋がる。平成21年度以降中央から完成させることも可能である。
- Q. 1丁目と2丁目間の海岸保全ラインでの高潮防護の整備が必要ではないか。
- A. 1、2丁目間は海岸保全ラインに指定されていないが、内陸部の保全ラインと結ぶ予定ラインとなっている。現在の護岸事業の進捗を見ながら指定の検討をしていく。

### 2) 主な意見

- ・ 海とのふれあいの観点から、1月22日の現場見学会では、完成部分の3割勾配はきつuitと感じた。また、潮間帯では滑って危険である。

- ・ 環境学習の場では、今の護岸線よりも奥まったラインで防護することになるから、海岸保全ラインの修正が必要である。これが決まれば護岸すり付け距離の問題も解決する。
- ・ グリーンベルトが、みやげ物屋などに変身しないように、あくまで植生を希望する。
- ・ グリーンベルト等の用地の確保は、現段階では不透明である。
- ・ 来年度の実施計画には、粗朶等の実験を検討してもらいたい。
- ・ 第11回委員会でのH19実施計画案は多数の意見で採ったが、今までの合意形成の観点からは不満である。

## (2) 塩浜のまちづくりについて

市川市より次のような説明があった。

- ・ 市川市では、先行的にまちづくりを進める地区の地権者とまちづくりを進めるための組織をつくり、事業手法、基盤整備などについて勉強会を開いて、理解をお願いしているところである。
- ・ 市としても、県の護岸整備と連携し、塩浜地区まちづくり基本計画に沿ったまちづくりが進められるよう、今年度内に地権者と合意できるよう努力している。
- ・ 今後の取組みとしては、都市計画法の手続きについて協議を行い、地権者と協働で事業計画を立案し、民間からの事業提案を募集するための募集要項の作成などを行う予定である。
- ・ また、これらの手続きなどを経て、平成20年度には具体の事業計画を確定し、平成21年頃には基盤整備工事に着手することを目標としている。
- ・ 以上、市としても、地元地権者及び千葉県とは、これまで以上に連携を密にして「塩浜地区のまちづくり」や「自然環境学習の場」などと護岸整備が効果的に効率よく進行するよう十分に調整・協議していく。

## (3) その他

特になし

## 『市川市塩浜護岸に関する勉強会』結果概要

1. 開催日時 平成19年2月7日(水) 18:00~20:00
2. 開催場所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 17名(委員6名、一般1名、県市2名、事務局8名)
4. 座長 遠藤茂勝委員
5. 次第
  - (1) 第17回三番瀬再生会議の結果について
  - (2) モニタリング調査結果(速報)について
  - (3) モニタリング調査結果の検証手法について
  - (4) その他
6. 概要
  - (1) 第17回三番瀬再生会議の結果について  
意見なし
  - (2) モニタリング調査結果(速報)について  
意見なし
  - (3) モニタリング調査結果の検証手法について  
主な意見
    - 1) 個別目標1: 防護に関して
      - ・ 防護に対する達成度は工事進捗率と誤解されないような配慮が必要である。
      - ・ 完成断面と暫定断面の安全度を定量的に表現する必要がある。
      - ・ 個別目標1の「防護」は、背後地の安全の確保が目標であるから、マウンド等も含め評価すべきである。
    - 2) 個別目標2: 環境に関して
      - ・ ウネナシトマヤガイの再定着について、生息基盤となるカキの被度とは別に、カキの固体の大きさにも着目する必要があるのではないか。
      - ・ 平成19年度は捨石先行案となったが、これでは完成断面で法先の被覆を乱積みとした場合のモニタリングが当面できないことになるので、一部でも乱積みとした部分を作ってモニタリングをすべきである。→事務局: 検討したい。
      - ・ マガキの殻で怪我をすることがあり、マガキの着生と親水性は相反する場合があるので、着生させる部分とそうでない部分を考える必要がある。
      - ・ 水質の記録も、確認種の傾向を把握するうえで重要である。
      - ・ 経済的価値の高い魚種(ギンポなど)の復活も重要である。
      - ・ ウネナシトマヤガイの定着については、カキ殻の隙間に泥やプランクトンの死骸が詰まる状態は良くないので、この堆積状況の観察も必要ではないか。
    - 3) 個別目標3: 利用に関して
      - ・ 検証項目で「周辺域と調和」とあるが、周辺域の定義が不明である。
      - ・ 検証項目「周辺域との調和」についての基準とする値については、「多くの人がプラスの評価」が基準として厳しければ「多くの人が肯定的な評価」でも良い。

- ・アンケートの際は、事業区間全体のモンタージュを用意した方がよい。
- ・アンケートの際は、被覆石などの色が馴染んでくる10年後位の姿を見せるのが良い。
- ・よりよい景観とするため、背後地計画については市との協力が重要。
- ・海から陸側を見た景観が重要である。
- ・林を抜けると海が開けるような動線が良い。

#### (4) その他

特になし